

なぜ、宿場町に魚とりの道具が…？

ドジョウフミ（草津市蔵）



草津宿街道交流館の所蔵資料には、市民のみならずから寄贈を受けた資料が多くあります。寄贈資料の中には、「中神コレクション」や「うばがもちやコレクション」、「山口コレクション」のような個人で収集されたコレクション群のほかに、古文書や生活用具などのさまざまな資料があり、草津市の歴史を知る重要な手がかりとなっています。

今回は寄贈された資料の中から、漁に関する民具をご紹介します。長い楕円形の大きなザルに丸竹の把手をつけた漁具は「ドジョウフミ」や「ドンジョフミ」、「ドジョウカキ」などと呼ばれるもので、かつては滋賀県内各地で使われていました。使い方は簡単で、川や水路の中で足踏みして、隠れていたドジョウなどの魚をザルの中に追い込んで、ザルをすくい上げて捕まえます。かつて、琵琶湖周辺の川や池には豊富に魚がお

り、このような簡易な道具で捕まえることができたそうです。寄贈を受けた2点のドジョウフミはいずれも大きさが1mほどあり、竹を編んで作られています。竹の色や縁の部分の仕上がり方が異なっていることから、作られた年代や場所、人物が異なる可能性が考えられます。

この漁具はかつての草津宿だった地域にお住まいの方からご寄贈を受けたものですが、その伝来などの詳細は分かっていません。しかし、ドジョウフミが川や水路で使われる漁具であることや、県内の内陸地域でも使われていたことを踏まえると、草津宿にドジョウフミがあることは決して不可解なことではないと言えます。

（令和6年3月・草津宿街道交流館 岡田 裕美）